



IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM

GR86/BRZ Race Rd4 岡山国際サーキット

渾身の予選アタックが、赤旗に打ち消され……

せっかくつかんだ流れを活かせず、岡山では完走果たずに留まる



岡山国際サーキット

GR86/BRZ Race PROFESSIONAL Series 第4戦

2018年6月24日 岡山国際サーキット (岡山県)

晴れ 12周 (35台出走)

予選 23番手/決勝 25位

ドライバー: 平木 湧也

チーフメカニック: 清水 修

メカニック: 藤咲 一仁



茨城トヨペットレーシングが、平木湧也選手とともに挑む GR 86/BRZ レースのプロフェッショナルシリーズ第4戦が、6月23～24日に岡山国際サーキットで開催された。

前回のオートポリスでは、予選で初のシングルグリッドとなる7番手につけ、決勝でも順位を上げて5位でフィニッシュ、初入賞も果たすなど、まさに上昇気流をつかみつつある平木選手。今回の舞台である岡山国際サーキットも、高速コーナーこそ少ないものの、テクニカルコースとして知られ、走りにリズムを要することから、平木選手の勢を活かせる場であることは間違いない。

このレースウィークは木曜日から走行を開始、金曜日の午後に行われた専有走行こそミスもあって、上位に名を記すことはできなかったものの、午前の練習走行ではトップ10入り可能なタイムもマークしており、大いに自信を抱いて予選に挑んだのだが……。

予選が行われた土曜日は、午前中があいにくの雨模様。しかし、午後には雨もやんで、日差しも注ぐようになって路面状態は急速に回復し、プロフェッショナルシリーズの予選の頃には、限りなくドライコンディションになっていた。ただ、ところどころにウェットパッチを残していたため、より後半に状態は向上すると判断。そこで計測開始と同時にスタートするのではなく、しばらくピットで待機することとした。そして、7分ほど経過したところから走行を開始。

アタックを終えた大半のドライバーはピットに戻っており、クリアラップを撮るには絶好の条件となっていた。アタックを開始した平木選手はセクター1で自己ベストを更新、続けてセクター2も攻め込んでいったものの、その最中に見えたのは赤旗で、せっかくの攻めの走りが水の泡に。

いったんピットに戻って、再開直後に2度目のアタックを行ったものの、すでにタイヤはコース全周食いしぼるだけのパフォーマンスを失っており、トップから1秒1遅れとなる1分51秒389をマークするのが精いっぱい。決勝レースには23番手から挑むこととなった。

「最悪でしたね。最初のアタックは想定だと3～4列目には間違いなく行けました。2回目のアタックは、もう仕方ありません。上位を狙えただけにとっても残念です。赤旗を見たのはWヘアピンの2個目なので、あと最終セクターに行くだけで、タイムが出ていたのに……。これもレースなので。明日、頑張ります。去年のレースは荒れただけに、ガツガツ行かず、あえて冷静に行ってみようかと思っています」と平木選手は、決勝での巻き返しを誓っていた。

日曜日の岡山国際サーキットは天候にも恵まれ.....というより、気温は 30 度を超え、路面温度は 50 度近くに達する、まるで夏を思わせる暑さの中での戦いとなった。決勝レースではスタートを決めて、一気に順位を上げた平木選手だったが、アトウッドカーブで痛恨のシフトミスが。わずかな失速を百戦錬磨のライバルたちが見逃してくれようはずもなく、幸い接触はなかったものの、順位を落としてオープニングラップは予選と同じ 23 番手で終える。

とはいえ、本来の平木選手は、その場にいるべきスピードではなかったこともあり、まずは集団の中で浮上のチャンスをうかがい、4 周目には 21 番手に浮上。そして、さらなるポジションアップを狙い、5 周目の 2 コーナーで前を行く車両のインを刺すも、その直後に接触が！これで 30 番手にまで順位を落とすも、車両にはほとんどダメージがなかったことから、その後の挽回によって 25 位で平木選手はゴール。レース中のベストタイムは 1 分 53 秒 871 と、上位陣とも遜色なかったことから、もし予選上位からスタートできていたならば.....。

次回のレースは 7 月 21~22 日、富士スピードウェイが舞台となる。着実に速さを身につけてきた平木選手のレベンジに、乞うご期待！



平木湧也選手のコメント



スタートは良かったです。でも、アウッドコーナーでイン側が渋滞していたので、アウト側から行ったんですが、シフトミスしてしまい抜かれてしまって。そこから挽回していったんですが、5周目の2コーナーでインに入ったところで、接触してしまいました。今回は予選の順位がすべてでした。レースウィーク通じて調子は良かったので、まだ流れはいいと思います。次回7月22日に富士スピードウェイで開催されるシリーズ第5戦、全力で頑張ります。

チーフメカニックのコメント ～清水 修 (FUN TO DRIVE 推進グループ)～



GR86/BRZ Race PROFESSIONAL Series への派遣にあたり、ご支援・ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。第4戦岡山国際サーキットは梅雨の不安定な天気と大荒れのレース展開により、残念な結果で終わってしまいました。チーフメカとして大変申し訳なく思います。ですが間違いなく上位争いが出来る速さを持っている事は今回の走行でも再認識出来ました。レースウィークを通して戦略の組み立てさえ間違わなければトップ争いが出来ると確信しております。次は来月、富士戦となりますので改めて応援宜しくお願い致します。

メカニックのコメント ～藤咲 一仁 (アートタワー水戸店)～



まず今回レース活動に参加させてもらうにあたり、協力していただいた店舗スタッフの皆様ありがとうございます。またレース関係者の皆様大変お世話になりました。以前、耐久レースには参加させていただきましたが86/BRZレースは初めてでした。耐久レースでは経験出来なかった事が沢山あり、とても貴重な経験をさせていただきました。レース活動に参加する事はなかなか経験出来ない事が経験できますのでこれからも、沢山の方に参加していただき今以上に茨城トヨペットのレース活動が盛んになればと思います。

チーム監督のコメント ～石川 一郎 (FUN TO DRIVE 推進グループ)～



GR86/BRZ Race 第4戦岡山国際サーキットの結果は、予選：23位、決勝：25位でした。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。前回のオートポリスで5位入賞、初ポイントを獲得。今レースウィークも好調をキープし土曜の予選に挑みましたが、アタックを開始しセクター1で自己ベスト、セクター2までで全体の5、6番手あたりを快走、しかし最終セクターに入ったところで他車にトラブルが発生し赤旗が出されて計測が中断となってしまう、結果23番手に甘んじてしまいました。決勝レースの序盤は順位を上げていきましたが、中盤の接触によって順位を落としてしまい、その後の挽回も目覚しかったのですが25位でのゴール。予選の大切さが身に染みるレースとなってしまいました。しかし車両、ドライバーともにTOP10が狙える速さをキープしていることは確認できました。次戦、7月22日に富士スピードウェイで行われる、シリーズ第5戦にご期待ください。